

小地域展「上鉤の歴史と文化」

会期：令和8年 3月 7日（土曜日）から
5月10日（日曜日）まで

開館時間：9時30分から17時まで（ご入館は16時30分まで）

入館料：無料

会期中の休館日：毎週月曜日（5月4日を除く）

4月30日（木曜日）、5月7日（木曜日）

【展示解説会】

3月20日（金・祝）、4月29日（水・祝）

いずれも14時から（1時間程度）



名神高速道路栗東インターチェンジ造成の頃の上鉤とその周辺(1961年撮影)

主催：栗東歴史民俗博物館（滋賀県栗東市小野223-8）

TEL：077-554-2733、FAX：077-554-2755



小地域展「上鉤の歴史と文化」

会期：令和8年 3月 7日（土曜日）から5月10日（日曜日）まで

栗東市北西部に位置する上鉤地区。江戸時代には、上鉤と寺内という2つの村に分かれていましたが、明治7年（1874）に上鉤村として統合されました。その後、明治13年の記録によると、人口は238人、戸数は48戸とされています。

集落は東海道沿い（上鉤）とその西側（寺内）に分かれており、現在では両集落の間を国道1号が通っています。また、国道1号の上鉤交差点は、琵琶湖方面に向かう県道栗東志那中線の起点でもあり、滋賀県内でも有数の交通量を誇る場所となっています。このような立地条件の利便性も影響し、上鉤地区では近年人口の増加が続いています。令和8年（2026）2月1日現在の人口は1,634人、世帯数は706世帯です。

表面の写真は昭和36年（1961）に撮影されたものです。画面左奥では、昭和38年に開業した名神高速道路栗東インターチェンジの造成が進む様子が写されています。一方、手前には上鉤地区の様子も捉えられています。

画面中央を横切る東海道沿いの道、国道を挟んで手前側に広がる集落、上鉤池、そして江戸時代から“鉤の陣”の有力な候補地の1つと考えられてきた永正寺。そのほか、鉄道（現在のJR草津線）も写るこの写真は、栗東地域の歴史や文化が凝縮された一枚と言えるでしょう。

栗東歴史民俗博物館では平成12年度から毎年度、市内のひとつの大字を取り上げ、その歴史と文化を紹介する展覧会（小地域展）を開催してきました。令和7年度には治田地域から上鉤地区を取り上げ、小地域展「上鉤の歴史と文化」を開催します。



永正寺(市指定史跡「足利義尚公陣所跡」)
(2026年2月6日撮影)



住宅地内をいく子ども神輿
(2025年5月3日撮影)